

教育厚生常任委員会の調査報告

◎濱田 百合子（委員長）

○村田 珠美（副委員長）

山本 芳男

大岸 眞弓

久保 和昭

山口 学

舟谷 千幸

●現在の予算は、タブレット購入費やネット環境整備費。9月定例会議に、セキュリティや教員向け活用研修費、その他の経費を計

●タブレット導入は、ハード・ソフト面を一元的に選定するため、9月上旬にプロポーザル、10月に業者確定し契約締結予定。令和3年2月上旬に導入予定。

GIGAスクール構想について

【7月20日】

新型コロナウイルス感染症拡大を機に、国の支援が加速し、児童・生徒に一人一台のタブレットなどの整備を前倒しで進めることになった。
その状況と、今後の本市の小中学校児童・生徒減少対策について調査した。

●複式学級の現在の状況は、片地小学校で令和2年度が、1年生と2年生。令和8年度まで一部複式学級となる。香長小学校は、令和

●平成25年度から令和8年度までの動向は、小学生が154人、中学生が92人の減少。

(1)市内の児童生徒数の現状と今後の展望

【8月18日】



大柵小学校

上。年間5千万円の予算を見込んでいる。サービスを厳選し、経費を抑制したい。

●教育を取り巻く状況の変化
①令和2年3月31日現在、さまざまな事情で校区外通学生が81人いる。
②多人数の中で切磋琢磨

●今後の取り組み内容
①コミュニティ・スクールで地域と共にある学校づくり。
②各学校で特色ある学校づくり。
③中学校区中心に一貫教育と魅力ある学校づくり。

6年度～8年度が一部複式学級の可能性がある。
大柵小学校は、現在完全複式学級。
大柵中学校は、令和6年度～8年度は一部複式学級の可能性がある。
●片地小学校は、片地小学校運営協議会より特認校の要望が出ている。調査研究している。

(2)大柵小・中学校の児童生徒数減少に伴う対応と展望

●大柵保育園の園児数は今年度11人。今年6月時点で母子手帳交付は3人である。
大柵小・中学校の存続は喫緊の課題と認識している。

●活性化検討委員会や、コミュニティ・スクールでの議論、県の中山間地域における特色ある学校づくり推進事業の研修会でも検討中。

質疑の内容



大柵中学校

●山村留学の検討は、地域との関係が大事で、大柵ならではの教育を作り上げたい。
Q 児童生徒に校区外から来てもらうことは、
A 地域の方々の力がないと進まない。検討委員会で検討したい。
Q 検討委員会の中でだけでなく、定住推進課との連携で議論する必要があるのでは。
A 教育分野でどこまでできるか難しい問題で、まちづくり事業として考える必要がある。